

R 5 前期学校評価の考察

肯定率 80%を超える評価項目（B評価以上）は、職員が 17 項目中 15 項目（88%）、児童が 13 項目中 13 項目（100%うち 9 項目はA評価）、保護者が 15 項目中 9 項目（60%）である。職員と児童の評価は全体的に良好であるが、保護者の評価は決して高くはない。前回(R 4 後期)評価と比較すると、全体的に大きく評価を下げている項目があったり、保護者の評価に関しては全ての項目において前回は下回っていたりと、早急な対応が必要である。

【項目ごとの分析と対応策】

- 評価項目☆「まごころ(校訓)を意識した教育活動」・評価項目 9 「思いやり・生命尊重」
この2つの項目は、職員・児童・保護者の全てが、いずれもA評定を付けている。様々な取組を通して、校訓の「まごころ」が学校内外に浸透してきていることを感じている。

- 評価項目 2 「学力向上」・評価項目 3 「家庭学習」
この二つの項目は、それぞれ前回比が児童評価において-6 %ずつ、保護者評価においても-3 %ずつ低下しており、保護者評定がそれぞれC・Dと低い。職員肯定率はどちらも100%であり、学力向上については、各種学力調査の結果をもとに校内研修を充実させ、具体的な取組を行っている。また、家庭学習については、学級担任の裁量に任せているところではあるが、効果的な家庭学習の在り方（質及び量）について担任同士の情報交換及び研修を充実させ、更に家庭の理解と協力が得られるよう努めたい。

- 評価項目 4 「読書」
児童肯定率は 94%で前回比+6 %と向上している。しかし、保護者肯定率は 59%のD評定で全項目中最も低く、前回比-8 %の低下となった。職員肯定率 100%に表されるとおり、学校生活において児童はよく読書に親しんでいる。今後も引き続き、ゲームや動画に関する指導を一層充実させ、「読書の日」の取組等を通して、家庭と連携しながら読書時間と質の向上に努めたい。

- 評価項目 6 「目的意識」
「目的意識をもち自分で考えて行動する」については、職員及び児童の肯定率は前回比と変わらず高い水準を維持しているが、保護者肯定率が前回比-20%（D評定）と大きく低下している。本校で重点的に取り組んでいる「気づきの教育」は、家庭や地域などの学校外において出来るようになって初めて「本物になる」と考える。今後も粘り強い指導を心掛け、自ら「気づき・考え・実行する」ことのできる子どもたちの育成を目指したい。

- 評価項目 10 「生活習慣」・評価項目 12 「体力づくり」
この二つの項目は、教員及び児童の評定がどちらもA評定であるが、保護者はどちらもC評定で、前回比も-7 %と-14%で大きく下回っている。暑い日が続く熱中症を避けるため、自宅や屋内で過ごしすぎるを得ない状況であったことも要因として考えられるが、家庭と協力した生活習慣の見直しと冬場へ向けた体力づくりを奨励し、子どもたちの健康な体づくりの推進に努めたい。